



著者ふじわら・さわこ氏は映像プロダクション勤務を経て、同志社大学大学院神学研究科博士課程修了。博士（神学）。専門分野は現代神学。東北学院大学文学部専任講師・宗教主任などを経て、現在、立教大学文学部キリスト教学科ほか兼任講師。日本キリスト教協議会（NCC）書記。

## 現代エキュメニカル運動史

ジェンダー正義の視点から読み解く

藤原佐和子 著

「物議を醸す」問題に核心がある！

キリスト教において、教会一致運動と訳されるエキュメニズム。その中心的な課題とは何か。

本書はジェンダー正義をめぐる動きに着目し、その視点から綴られた、これまでにならぬ新たなエキュメニズムの歴史である。女性の按手の是非やセクシュアリティに関する問題群は90年代以降の「エキュメニカルの冬」をもたらしたとされるが、そこではいかなる論争と実践が展開されてきたのか。多くの取り組みと議論を一次資料を通して丹念に辿る。

「コラム」ではエキュメニカル運動を理解するための基本概念を丁寧に解説する。

### 【目次から】

#### 序 論

第1章 エキュメニカルの冬

第2章 信徒の参加

第3章 女性の参加

第4章 女性の按手

第5章 ヒューマン  
セクシュアリティ

第6章 ジェンダー正義

結 論

#### 【コラム】

① 世界宣教会議（WMC）

② 国際宣教協議会（IMC）

③ 生活と実践（Life and Work）

④ 信仰と職制  
（Faith and Order）

⑤ 世界教会協議会（WCC）の  
成立

⑥ ミッシォ・デイ  
（missio Dei）

◆ A5判・238頁・定価3740円

9月19日発売

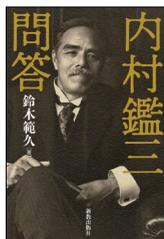
● 7 月 刊 行

# 内村鑑三問答

鈴木範久著

◆四六判・定価 2970 円

70年にわたり内村と向き合い続け、記念碑的な『内村鑑三日録』全12巻を世に問うなど、終始内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「新島襄から離れたわけは」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する24の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。



● 5 月 刊 行

# クエア神学入門

その複数の声を聴く

クリス・グリノフ著／薄井良子訳

◆四六判・定価 2970 円

本書は、クエアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す。



● 5 月 刊 行

# 滝沢克己の現在

没後 40 年記念論集

滝沢克己協会編

◆四六判・定価 3740 円

滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした「純粹神人学」は、没後40年を経て今なお読む者を挑発し続ける。それに応答した14名の渾身の論考を収録する。



● 3 月 刊 行

# 奴隷より身を起こして

ブッカー・T・ワシントン自伝

佐柳文男・光代訳、大森一輝解説 ◆四六判・定価 2860 円

20世紀初頭のアメリカで最も著名な黒人だったワシントン。苦学力行の末に白人上層に賞賛される。黒人保守派の元祖と目される人物の自画像を通じて、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられる。



ブレットラー、エンス、ハリントン著／魯恩碩訳

## 聖書学と信仰者

クリスチャンは批判的聖書学とどう向き合おうべきか？

ユダヤ教、カトリック、プロテスタントの3人の聖書学者が、旧約聖書を批判的かつ信仰的な観点から読むことは可能であるという確信の下、それをどのように遂行できるのか、または遂行すべきなのかを、古代以来の聖書解釈の歴史から最新の釈義理論までを参照しつつ考察する。

A5判・予価2900円

デイトリヒ・ボンヘッファー著／宮田光雄監訳

## 倫理

D BW版・新訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻(D BW6)に基づく全く新たな訳が完成。ナチの監視下に慌ただしく書き継がれた草稿を綿密な判読と徹底的な校閲により再構成し、膨大な脚注を付した本書は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

四六判・予価9900円

イルゼ・テート著／岡野彩子訳

## 善き力

ボンヘッファーを描き出す12章「仮題」

著者は、夫H・E・テートと共に新版ボンヘッファー全集(D BW)の編集に絶大な貢献を果たし、ボンヘッファーのテキストに誰よりも通暁する碩学である。本書は、著者が2000年代初頭に、主として一般市民を対象に語った講演を収録する。様々なテーマを切り口に、ボンヘッファーの信仰世界の豊かさが生き生きと描き出される。

四六判・予価3300円

### ● 8月の新刊と雑誌

## ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス著  
草野智洋・徳永繁子訳



ロゴセラピーは、人間を身体・心理・精神の三次元で捉え、とりわけ精神次元を重視する。本書は、その基礎概念を説明したのち、「生きる意味」の発見を支援する実践技法を懇切に解説。医療と心理のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての人にとって豊かな示唆に富む。著者はフランクルの高弟。

◆ A5判・定価3300円

## 福音と世界

◆ 定価6600円

9月号 特集Ⅱ ともとキリスト教

地域社会と教会

寄稿者…小見のぞみ、東義也、安川千穂

望月麻生、小林休、吉田新

連載 インタビューシリーズ 女たちの闘い、田島卓、今高

義也、長尾優、サンダース&ヤーバー、山崎ランサム

和彦

販売部から

日本人による聖書画で好きな画家と言えば渡辺禎雄・小磯良平・田中忠雄・渡辺総一でしょうか。それぞれ聖書の場面を独特な描写で描いています。渡辺禎雄のろぼと羊は小社のシンボルにもなっています。画集も幾冊か出版、「渡辺禎雄カレンダー」は海外からも注文があり、多くの人に親しんでいただいています。「聖書の風景——小磯良平の聖書挿絵」(岩井健作著)も小社の出版物です。日本聖書協会が小磯に聖書の挿絵を依頼、約2年間で完成しました。旧約15、新約17の聖書画32点は、聖書の情景を鮮やかに描いて心に残ります。小磯は「女性像の画家」として知られ、「T嬢の像」は帝展特選となり、洋画家として不動の地位を得た作品と言われています。「エデンの園」のエバの描写はさすが「女性像の画家」と頷けます。洋画とは異なる日本人の感性を感じる作品です。本書は、絵画に込めた小磯の視点を問いながら、知り得ない小磯良平の人となりを知る貴重な一冊です。著者の岩井健作氏は牧師として神戸教会に赴任、教会員としての小磯と出会います。小磯が1988年に召される日まで10年間の交わりがあり、葬儀を司りました。(金沢)

編集部から

長尾優さんの「装幀のお仕事展」会期中にトークイベントがありました。長尾さんが4冊もの装幀を担当した哲学者の森一郎さん(東北大学教授)が登場し、著者と装幀者という珍しい組み合わせで刺激的な対話が繰り広げられました。装幀は抽象的な主題を具体的な形で表すのでいわば比喩を作る仕事だという発言は興味深かったですし、装幀家は甲子園の芝職人だ(誰も芝に注目しないが良い試合のためには必要)も、謙遜しすぎな気はしますが、編集者稼業にも通じて共鳴しました。なお長尾さんが『福音と世界』に連載中の「私は告白する、私の神を」はまだしばらく楽しめそうです。荒井献先生が8月16日に亡くなりました。94歳でした。先生は2003年から13年まで、『福音と世界』で実に101回にわたって使徒行伝の釈義を連載してくださいましたが、その間原稿が一度も締切に遅れなかったことは編集者として忘れがたい思い出です。小社創立70年の記念講演にもご登壇くださったなど本当にお世話になりました。感謝の思いは尽きません。10月号に追悼文、来年4月号に荒井聖書書を様々な視点から振り返る特集を予定しています。(小林)

# 福音と世界

2024年  
10

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・反政治

—— 国家と権力の論理から離れて

政治というアポリア——『社会契約論』再訪

王寺賢太

イエス・キリストは選挙にいかない

トルス

トイの神秘主義アナキスム

栗原 康

自分の声を見つめる——あるいは「モクラシー

田崎英明

政治・反政治・別の政治——ハートリーネグリの

飯村祥之

「指導者なき指導」——ハードコアパンクにおけるストレート・エッジ

川上幸之介

の思想と実践——シモーヌ・ヴェイユの反政治

彫 真悟

チーム友達——シモーヌ・ヴェイユの反政治

岡田 仁

【好評連載】

◆ 女たちの闘い 声をつむぐ、織りなす 鄭淑子さんの死

田島 卓

◆ 証言としての旧約聖書 6

今高義也

◆ 私に告白する、私の神を 19

長尾 優

◆ 教会におけるイデオログレーション 30

山口陽一

◆ 「日本的キリスト教」を読む 30

山崎ランサム和彦

◆ 新約釈義 ルカ福音書 34

山崎ランサム和彦